2022年度 第1回但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録（要旨）

日　　時　2022年7月25日（月）　13:45 ～ 15:10
場　　所　豊岡市役所3階　庁議室
出 席 者　10名中9名

◎報告事項

会長　はじめに、報告事項⑴第2次共生ビジョン達成状況について事務局から説明をお願いいたします。

事務局　＜説明　⑴第2次共生ビジョン達成状況について＞

会長　事務局から説明がありましたが、○（達成）がついている項目については評価するところですが、×（未達成）になっているものであっても、コロナの影響により如何ともしがたいといった状況でありました。全体としてとしてはまずまずといった評価で済みましたが、委員の皆さんから質問等ありましたら、ぜひご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

A委員　医療のところの医師数は目標値よりも20人多く、これだけ医師不足と言われている中で医師が増えているというのは、どういう手法でこれだけ増えているのかわかりませんが、その一端がわかれば教えていただきたいです。

あと、ドクターカー運行回数の目標値ですが、達成状況では○がついていますが、本来はドクターカーの利用は少ないほうがいいのではないでしょうか。これだけ運行回数が増えているというのは、我々としてはよくないことだと思いますが、そのあたりはどうでしょうか。

それから、有害鳥獣による被害面積がすごく減っているわけですが、本当にそうなのだろうかという疑問があります。私は農業をやらないのでわかりませんが、シカの被害がすごく増えているとよく聞きますが、これだけ見ると2015年と比べて半分以下に減っています。捕獲頭数も減っているということはシカの頭数自体が減ってきているという分析になると思うのですがどうでしょうか。

会長　医師数については、全国的に確保が非常に難しいという中で、この結果を見るとドクターの数は増えています。ドクターカーについてももっともで、私も達成したかどうかではなく実績値だけでいいと思いますし、減っていればそれはそれでありがたいことではあるのかなと思います。

それから、シカの被害は数字上では減っていますが、実態として普段生活していて本当にそうなのかという疑問がありましたので、回答できるところがあれば回答してください。

B 委員　　医師確保についてお答えさせていただきます。おっしゃるとおり、地方にとっては医師不足ということで確保に大変苦労しているところですが、兵庫県の養成医制度等がありまして、その制度に基づいて養成医の数がだんだん増えてきています。増えている中で、但馬への重点的な配置を県にお願いしていまして、阪神間などの医師が多いところと比べると、但馬に手厚く配置をしていただいているというのが一点。それから、資料にも出ていますように、医師の就学資金等の貸与も大きな要因です。

豊岡病院については、「ダヴィンチ」を始めとした最新の医療機器を導入しています。そういった最新の機器を使って治療をしたいというドクターも多いですので、そういう整備をきっちりとやっています。また、特に豊岡病院の特色としては、ドクターヘリやドクターカーを活用した高度救命救急センターがあり、ドクターヘリに乗りたいという救急救命士を目指す若いドクターで、豊岡に来たいという希望を持った方がたくさんいらっしゃいます。

もちろん、これら以外にも神戸大学や京都大学の医局を通じた医師確保もやっていますが、ドクターが魅力を感じるような病院づくりというところが大きな要因なのではないかと考えています。

それから、ドクターカーの件ですが、どうしても救急の数というのは一定数あるわけで、そこにドクターカーが行くのか、救急車が行くのかということだと思うんです。救急車にはドクターは乗っていませんが、ドクターカーが行けるということは、その場で救急救命ができる、その差が非常に大きいということだと思います。ドクターカーがないような地域であれば、ドクターの代わりとして救急車に乗った救急救命士がその役割を担うと。ドクターカーが一定数ずっと運行し続けていることで、それだけ救命率が上がるということになりますので、その点は評価できるのではないかなと思います。

事務局　　ドクターカーについてはずっとこの数値を用いていて、やはりそういった議論はありましたので、今年度から始まった第 3 次共生ビジョンでは、14 ページにあります重要業績評価指標を、24 時間運行の維持と改めました。同じく、15 ページの小児救急医療電話相談事業についても、多いほうがいいのか少ないほうがいいのかといったことがありましたので、現状を維持するといった形に改めております。

それから、シカの被害面積についてですが、各市町で協定を結ぶ事項ですので、有害鳥獣対策事業に関する協定を締結している豊岡市と養父市、2 市の合計数値となっています。先ほど、実態としてはそんなに減っていないのではないかというご意見がありましたが、数値としてはこのようになっているということでご理解いただきたいと思います。

A 委員　　卒業後の豊岡病院への勤務に結びつくような、病院独自の奨学金はやっているのですか。

B 委員　　病院組合としていろいろな制度を出しています。

C 委員　　資料２の４ページの鉄道交通対策事業で、2017 年度以降は数値の発表がないということですが、昨今、但馬地域だけではないですが、ＪＲ等のローカル線の廃止のようなことが新聞等で取り上げられている中で、このあたりの数値が無いというのはどうなのかと思いましたので、事情をお聞きできたらと思います。

事務局　　この項目の数値は豊岡市の都市整備課から提供されたものを記載しているのですが、これまではＪＲが調査した但馬内の駅の数値を提供していただいていたようですが、今は頂けていないというのは事実のようで、実績値が出せていません。ただ、第 3 次共生ビジョンでは国データの特急停車駅の乗降者数に改めております。但馬の公共交通の会議でもこの数値をＫＰＩに使っているということですので、今後はこちらを使っていこうと考えています。

D 委員　　出会いの機会への参加者数が少ないということですが、定住自立圏においては、その地域に根付く方が増えるということが大切だと私は思います。我々の会社にも、一回も結婚していない方が数名おられます。出会いがなければ結婚もできません。出会いの機会というのを十分考えていただいて、但馬の人口が増えることをお願いしたいと思います。

会長　　但馬の各市町もそうですが、各社協も婚活等には相当気合を入れてやっています。達成状況では 2021 年は 588 人となっていますが、これはたぶん市の統計か何かで、社協の分は入っていないと思います。

　コロナ禍で外出制限が掛かって直接顔を合わせることができない中でも、他の方法を使って何とか１件でも増やそうということで、各市町・社協ともやっていますので、ぜひ皆さんの応援をお願いしたいと思います。

E 委員　　シカの農業被害の面積が減っているという件ですが、養父市では高齢化に伴って農業をやめる方が非常に多くなってきていて、作付面積が少なくなってきているというのも原因の一つではないかなと思っています。それと、関宮あたりでは大雪でシカの交通事故が非常に多かったのと、シカは川に水を飲みに来ますが、大雪のために川の中で溺死しているシカも多かったです。

　被害ということでは、サルやカラスの被害も増えています。各市町で、村を挙げて電気柵などの鳥獣が入ってこないような対策をやっていますが、そのことも一つの原因ではないかと思います。猟友会ではカラス退治にも非常に熱を入れてやっています。

会長　　ほかに質問なり意見がなければ、第２次共生ビジョンの達成状況については承認いただいたということで、次に進めさせていただきます。

◎協議事項

会長　　次に、協議事項　⑴第３次共生ビジョンについて、事務局から説明をお願いします。

事務局　　＜説明　⑴第３次共生ビジョンについて＞

会長　　今回から、芸術文化観光専門職大学から委員に就任いただいています。この分野は特に皆さんも関心があると思いますので、委員よりご説明をお願いしたいと思います。

C 委員　　簡単に本学の概要と地域連携事業についてお話をさせていただきたいと思います。

本学は 2021 年４月に開学し、まだ２年目です。但馬初の４年制大学ということで、現在は１期生と２期生合わせて 165 名が在籍しています。４学年すべてそろうと 320 名くらいになりますが、それでも非常に小さな大学です。ただ、日本で唯一、芸術文化と観光の両方を学べる公立の専門職大学ということで、今年度の入学者は、36 の都道府県から学生が集まってきており、そのうちの８割が女子学生です。都道府県別の内訳は、やはり関西が一番多くて 23 名。その次に多いのが北海道・東北の 19 名ということで、全国各地から集まっていただいています。

あと２年すると卒業生が出てくるわけですが、進路センターの中ではどこに就職するかということもあるのですが、先ほどからありますように、少子高齢化・過疎化が進む中で、但馬に若い女子学生がたくさん集まってきているということで、地域によっては豊岡が非常にうらやましいという声も頂いています。

そもそも専門職大学とは何なのかということですが、2019 年度からスタートした新しい制度で、従来のいわゆる総合大学とは少し違っていて、社会で即戦力として活躍できる専門職業人を養成するというのをミッションにしています。特定の職業のプロフェッショナルになるために必要な知識や理論、それから実践的なスキルの両方を身に付けることができる大学というのが、専門職大学の特徴です。

具体的には、授業の３分の１が実習ということで、本学では 800 時間以上が実習となっています。もう一つの特徴としては、教員の４割以上が実務家教員で、論文を書いたり研究をしたりするいわゆる大学の先生ではなくて、会社で働いていらっしゃるような方が教員というのが特徴です。また、学生数に対して教員が非常に多く配置されており、原則 40 人以下の少人数で授業を受けることができるというのも大きな特徴となっています。

＜以降、「ガイドブック 2023」を用いて説明＞

お手元のパンフレットをご覧いただきたいのですが、11 ページに「豊富な臨地実習」とありますが、先ほど触れましたように、授業の 3 分の 1 を実習に充てています。写真がいくつかありますが、豊岡のいろいろなところに出向いて行って現場で学ぶということに、授業時間の多くを割いています。

12 ページでは「語学力を磨く」ということで、本学は語学に非常に力を入れており、4 年間のうち 1 回は海外に実習に行けるような設定もしています。今年度の夏休みにもドイツへ海外実習に行く学生がいます。

13 ページの「クォーター制」というのも本学の特徴で、多くの大学は前期・後期と二つに分けていることが多いのですが、本学では四つに分けています。4 月から 6 月の第 1 クォーターで座学の講義を受け、7 月から 9 月の第 2 クォーターでいろいろな現場に出向いて行って、学んできたことを試す実習をします。そして、10 月からの第 3 クォーターでまた座学をして、1 月からの第 4 クォーターでまた現場での実践をする、こういったことを 4 年間繰り返すことで、社会で即戦力として活躍できるようなスキルを磨くというのが、本学の特徴の一つとなっています。

もう一つご説明したいのが、本学に設置した「地域リサーチ＆イノベーションセンター」です。地域のいろいろな課題解決の相談に乗るような窓口の役割を果たしており、本学の芸術文化と観光の双方の視点を生かして、地域の活力を創出する人材を育成するというのをミッションとしています。大学全体で地域社会と連携して貢献していくことが大きな役割と考えており、地域のニーズと大学の研究シーズをマッチング、コーディネートする学内組織として、この地域リサーチ＆イノベーションセンターを設置しています。大学の教員だけではなく、学生も地域連携のプロジェクトに参加して、学生には実践の場も提供するといった役割も果たしています。

令和 3 年度には 21 の連携事業を実施させていただき、一部ですが報告書としてまとめています。但馬 3 市 2 町のご協力を頂き、初年度から多くの連携事業を実施することができ、順調な滑り出しであったのかなと思っていまして、各プロジェクトで、若い学生の意見が聞けて非常にありがたいという、学生への好評も頂いています。

報告書の中から主要なものをいくつか紹介させていただきます。

＜以降、芸術文化観光専門職大学地域連携事業報告書を説明＞

・3 ページ　ＲＩＣプロジェクト「高校コミュニケーションワークショップ」
・17 ページ　「夢ホール運営等研修及び人材育成事業」
・18 ページ「観光業界を目指す若者向けセミナー実施業務」

今年度もすでに 17 の事業が実施されており、市町だけでなく、今後は企業との連携事業や、県外の市町・企業との連携も広げていきたいと考えています。大学として何かできることがあるかもしれませんので、何なりとこの地域リサーチ＆イノベーションセンターにご相談いただきたいと思います。

会長　　今の事務局あるいは専門職大学の説明を受けて、質問やご意見があれば伺いたいと思いますが、皆さんは各分野から選出された委員でありますし、担当の分野の内容はもちろん、それ以外でも結構ですので、積極的なご意見もしくは質問をお願いしたいと思います。

F 委員　　弊社も専門職大学と企業としての連携協定をさせていただき、実際に学生さんの意見で、湯村温泉・城崎温泉から大阪に向かう高速バスに個室座席を導入させていただきました。今後もこのような形でいろいろなご意見を伺うことができれば、私たち事業者としての取組みも進んでいくと思います。

第 3 次共生ビジョンでも専門職大学との連携という項目がありますが、これの「臨地実務実習受入先施設数」という指標をどのように理解すればいいのかがわからないところがありますが、連携についてはいろいろな形で継続していくとよいと思います。

もう一点、公共交通についてです。公共交通といっても、飛行機から始まり、バス、鉄道、タクシー、自家用有償と幅広い種類があるわけですが、これらの一つが欠けたからどうということではなく、もっと総合的に考えていかなければならないという、まさに今年度は但馬の公共交通の大きな転機に差し掛かっています。私たち事業者としても大きな課題を突き付けられた年かなと思っていますので、この第 3 次共生ビジョンにも地域公共交通の利用促進という項目がありますが、この内容も精査していかなければならない部分が出てくるかなと考えています。

E 委員　　人口統計だけでなく、住んでいらっしゃる方の年代別・男女別の、現在住んでいるところのいいところ・悪いところとか、どのように感じているかというようなデータはないんでしょうか。

事務局　　但馬全体のデータは持ち合わせていません。

E 委員　　そういうアンケートを取るようなこともないですか。

事務局　　各市町がそれぞれでされているところはあるかもしれませんが、圏域全体では取っていません。ただ、兵庫県が但馬地域ビジョンを作られたときに、アンケートではないですが、ヒアリングはされていたように記憶しています。

会長　　そういった県の成果物を提供していただくようお願いできますか。

事務局　　調べておきます。この定住自立圏でアンケートを取るということは考えていませんが、類似したような資料があればまた提示したいと思います。

E 委員　　結局、なぜ外へ出ていくかということです。私も民宿業をやっていますが、大阪や神戸から来る方は、「いいところだな」「こんなところに住みたいな」と言われるんですね。でも、実際は生活に必要な場所、働く場所がない。じゃあ何があればいいのか、いいところ・悪いところはどこなのか、男女別や年齢別で違うと思うんですね。今住んでいらっしゃる方の、「こんなだったらずっと住みたい」というような、もう少し具体的なデータがあれば、そこを攻めていけばいいとなるのではないでしょうか。

事務局　　まさに今ご指摘いただいたようなことを、各市町が地方創生という名で対策をされていると思っています。申し上げましたように、そういった但馬全体で共通する課題に対して、各市町それぞれがいろいろなデータを取ったりして動いていますので、そこはご理解いただきたいと思います。

会長　　時間となりますので、最後に、本日オブザーバーとして出席していただいております、兵庫県但馬県民局の副局長から、コメントをお願いしたいと思います。

県民局　　第 2 次共生ビジョンの達成状況を見ると、医療面ではかなり取組みが進んでいるように思いますが、観光や但馬空港の関係などは、かなりコロナの影響を受けているという状況になっています。

春頃のデータでは、但馬空港などはかなり戻ってきてはいるものの、とてもコロナ前までは戻りきらないという状況がありますので、この辺りも含めた検討が必要ではないかと思います。

また、災害時相互応援体制の強化のところがずっと「未実施」となっています。但馬県民局もそうですが、国や県、市町村でも、このような相互応援体制というのは非常に大事だと思っていますの、ぜひこのあたりはお願いしておきたいと思います。

公共交通についても委員の皆さんからご意見がありましたが、ＪＲのローカル線の問題につきましては、県でも検討会が立ち上がっています。第 1 回の検討会が終わり、8 月からは現場でのワーキングチームが動き出すということで、但馬では播但線と山陰線で間もなく始まるという状況です。第 3 次共生ビジョンの指標の中に特急停車駅の乗降者数というのがありますが、求められているのは「地元の足」「生活の足」といった意味もあると思いますので、検討会の中でＪＲがどのような数字を見せてくれるのかも注視していただいて、指標にも反映していただければと思います。

専門職大学の説明もありましたが、現場に入っての実習では、かなりの学生が但馬内で実習に入ることになります。再来年度には学生数が 320 人ほどになるということでしたので、それだけの若者が但馬の中で活動するということで、かなりの活性化も期待できると思います。この懇談会で目指すようなところにもつな

がることがあると思いますので、第３次共生ビジョンの見直しでは、このあたりの活動も見ながら計画を作られるといいのかなと思います。

会長　　このあたりで協議事項は終えさせていただきたいと思います。